

令和5年度（2023年度） 梅花中学校・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

- (1) 建学の精神に従い、キリスト教精神に基づき、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する。
- (2) 多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ女性を育てる。
- (3) のびやかな感性を養い、調和のとれた知性を持って社会に適合し、社会に貢献できる女性を育てる。

2. 中間的目標

- 1、生徒指導充実のため、更なる教員のスキルアップ
 - (1) 全校生徒を対象、学校評価アンケートの実施
 - (2) 新人教員育成制度の導入
 - (3) 大学入試改革を控え、生徒へ自ら学ぶ姿勢を身につけさせると共に、英語4技能の修得と国際理解を深める指導の工夫。
- 2、ICT教育・アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業の推進
 - (1) ICT機材を用いた授業研究の推進
 - (2) ALを取り入れた授業研究の推進
- 3、危機管理の徹底
 - (1) 火災・防災訓練の強化
 - (2) 災害時の危機管理マニュアルの充実・見直し
- 4、カウンセリング体制の強化
 - (1) スクールカウンセラーとの連携強化
 - (2) 不登校生徒への対応の強化
- 5、財務状況の共有化
 - (1) 財務説明会の実施
 - (2) コスト意識の改善

3. 学校評価の結果と分析

【生徒による学校評価の結果・分析】

各教科担当およびクラス担任に関して4段階（そう思う(4点)・だいたいそう思う(3点)・あまり思わない(2点)・思わない(1点)）で10項目のアンケートに回答を求めた。各項目別に中学・高校の平均値を算出し、評価とした。

中学では普通教科および実習教科どちらも昨年より0.06~0.17、平均約0.12のプラス評価となった。高校では普通教科および実習教科どちらも昨年とほぼ同様の評価であった。昨年度はコロナ前の授業展開に戻れたことにより評価の回復及び評価の維持につながったと考えた。今回は中学で特に習熟度別の授業やICTを用いた課題や連絡事項の配信などきめ細かい指導ができていことがさらなる評価の向上につながったと考えられる。今後もきめの細かい指導を継続していきたい。

クラス担任については、昨年度高校ではコロナ前の評価に戻り、今回は昨年度とほぼ同様の評価であった。中学は昨年度すべての項目で評価を下げたが、今年はすべての項目で0.17~0.33、平均0.28の大幅なプラス評価となった。一昨年度の評価を上回る高評価となった。特に評価が高くなった項目は「学校行事には積極的にクラスと関わっている」で担任がクラスの運営にも力を注ぎ、生徒の満足感が高まったことで高評価につながったと考えられる。今後もこの評価が継続できるよう努力していきたい。

【専任教員による自己評価の結果・分析】

学校運営15項目・教育内容16項目・生徒指導支援6項目・教員研修資質向上5項目についてアンケート調査を実施した。項目ごとに、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」の4段階で自己評価を行った。集計は、それぞれの評価を、Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として、各項目の得点の平均値を算出した。また、A～Dの頻度を回答合計数に対する割合(%)で示し、重点課題の評価指標とした。集計結果から前回調査以後、改善された点、対応が必要な点などを洗い出し、今後の改善目標を明らかにした。

評価の特に高い項目(3.0以上)は生徒支援の「カウンセリング体制」、教育内容その他の「学校行事」、教育課程の「学習指導要領の対応状況」「教育計画について」、情報公開の「ホームページの活用状況」、教育内容その他の「スポーツ・芸術文化」、教職員連携の「教員・教科間連携状況」があげられる。逆に評価の低い項目(2.0未満)は教員研修の「新任者のサポート状況」、財務関係があげられる。

評価の推移を見ると、昨年度は42の観点項目中、前年より評価が下がった項目が17項目となり、24項目の平均値が昨年値を上回ったが、今年度は高くなった項目は15項目、27項目は評価が下がった。42項目の平均では-0.009の微減で総合的に見れば、ほぼ昨年同様の評価と考えられる。

項目ごとに見ると評価が最も高まった観点項目は、「授業公開状況」であり、新型コロナウイルス感染が治まり体育祭・文化祭など保護者への公開行事が増えたことが数値として現れたと考えられる。他に評価が高まった項目は「ボランティア活動」や「ホームページへの活用状況」であり、保護者や学校外の方々との関係が深まっていることを評価している先生が増えたものと考えられる。今後もこれらの観点を本校の強みとしてさらに充実していきたい。逆に最も評価が低下した項目は「生徒指導において、家庭との連携ができていない」であり、ご家庭と連携して生徒指導を行いたいと考えているが、指導についてご家庭の協力を得る事が出来ない事案が見られるようになったことがこの評価につながっていると考えられる。生徒指導にはご家庭の協力・連携が不可欠と考えているので協力関係を築けるように努力をしていきたい。次に評価の低下した項目は「校内研修」の実施である。教員のスキルアップは近年教育内容の変化が激しい時代に必須のことであり、次年度は5日制を実施し土曜日の午前中を生徒対象の特別講座のほかに教員の研修や外部研修を受ける機会として積極的に利用したい。

4. 学校関係者評価委員会からの意見 2024年10月24日実施

(委員) 校長・副校長・教頭・PTA会長・近隣地区自治会長・近隣地区社会福祉協議会役員
梅花学園法人総務部長

【令和4・5年度実施の教員自己評価について】

- ・カウンセリング体制についての問いがあるが、登校がしんどい生徒の対応はどうしているのか。→担任以外にも養護教諭やスクールカウンセラーで話を聞き対応している。高校では条件があるが別室対応も実施して教室復帰を促している。
- ・自転車に対する交通ルール改正があるが、比較的梅花の生徒はルールを守って乗っているように思う。ヘルメットを着用している生徒はどの程度いるのか。→ヘルメット着用を促しているが任意としているので数名にとどまっている。交通ルール改正については生活指導部から指導している。
- ・制服も綺麗に着ていると思う。生徒は梅花の制服が好きなのではないかな。
- ・無償化の影響はあるのか。→今年度、公立の志願者が減少し併願の入学生が減った。

【令和4・5年度実施の生徒評価について】

- ・クラス担任の「指導の中で「建学の精神」や「スクールモットー」を考える機会が多い」の項目が一番評価が低いことは残念だ。私学の独自性として大切であると思うがどう取り組まれているのか。→礼拝や宗教の時間で特に繰り返し話をしている。スクールモットーは様々な場面で話されるのでしっかり定着していると思う。
- ・評価結果を各先生方へお渡ししていると聞いたが、その後評価をどう利用しているのか。→評価の低かった教員へは管理職が面談や授業参観を実施している。
- ・先生にとっては毎年の生徒の一人かもしれないが、生徒にとっては一生で一回きりの機会になるのでしっかりと指導していただける体制をこれからも維持していただきたい。→来年度からは5日制とするので土曜日の午前中を生徒への講座だけでなく、教員向けの研修時間として、また外部研修会に参加する時間として利用し教育力向上を目指していきたい。

【本年度の取り組み内容および自己評価】

中間的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価指標・進捗	自己評価
1. 生徒指導の充 実	(1)教員間の授業参 観を推進する。 (2)新人教員育成制 度の導入を検討・ 実施 (3) 英語 4 技能の 修得と国際理解を 深める	(1)授業参観期間を設定し、レポート の提出を義務化することで授業 改善を促す。 (2)新人教員にアドバイザー教員を 配置し、授業・生徒指導等でレポ ートを作成し育成をはかる。 新人教員を対象とした教員研修 を実施する。 (3)課外活動として英語を学ぶ機 会（外部講師での英会話・英検対 策講座）の継続。また、イングリッシュ ホリスパースの利用促進やイングリッシュ シヤワの継続。 外部ネイティブスピーカーと会話出来る 機会を増やす。	(1)教員による自己評価アンケート（以後自己評価） 教員研修「教員間で授業内容を評価、意見交 換を行う機会がある」の肯定的評価(A+B の 値)を 75%以上にする。今年度もコロナ禍に より教員間の授業参観は実施できなかった。 (2)自己評価・教員研修「初心者等、経験の少 ない教員を学校全体でサポートする体制があ る。」の評価は横ばいである改善には至って いない。肯定的評価 70%以上をめざす。 (3) English Communication Day をリベラルア ーツコース対象に実施しネイティブスピーカーとの会話の 機会を増やした。英検 2 級以上取得者を English Elite Member に認定しネイティブの特 別レッスンの受講を促す。中学・ハワイ、高校・ 中欧の海外修学旅行、国際専攻の海外留学を 再開した。 自己評価・教育内容「他国の歴史・文化の理 解、異文化交流など国際理解に対する教育活 動を取り入れている。」の肯定的評価を 80% 以上に保つ。	(1)2023 年度 40.2% 2024 年度前半 36.0% (×) 授業参観の回数を増やすこ とで充実を図る。 (2)2023 年度 26.2% 2024 年度前半 24.0% (×) 5 日制導入に伴い土曜日に教 員研修や外部研修会への参 加を促すことで改善を進め たい。 (3)2023 年度 78.6% 2024 年度前半 74.0% (△) 海外研修の再開やイングリッシュ ホリスパースの活用法の工夫な ど、英語に触れる機会を増や す取り組みを継続して実施 する。
2. ICT 教 育の推 進	(1)ICT 機材を用い た授業研究の推進 ・ ICT 環境の整備 (2)アクティブラーニング (AL)を取り入れた 授業研究の推進	(1)ICT 教育推進委員会を中心に 情報収集・校外研修に参加する ・Wi-Fi 環境が整い iPad,chrome book を活用する授業展開や課 題設定を工夫する。 ・校内のメインサーバーを増強 し ICT 環境のさらなる充実を 図る。 (2)ICT 機材を活用しグループワーク やプレゼンテーションを実施し「主体的・ 対話的で深い学び」を実施する。	(1)2020 年度 Wi-Fi を整備、中学全生徒に iPad を、高校は 2022 年から chromebook を 導入し、スタディーサブリを導入した。 ・2022 年度より専任・常勤教諭にノートパソ コンを貸与。 「ICT 教材を活用した教育が活発に行われ ている」の肯定的評価 70%以上を目指す。 (2)目標は達成できなかったが評価は上昇し ている。「主体的・対話的で深い学び」(アクティ ブラーニングの視点に立つ学び)に向けた教育を 行っている」の肯定的評価 70%以上を目指 す。	(1)2023 年 64.3% 2024 年度前半 60.0% (△) 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。 (2) 2023 年 54.8% 2024 年度前半 58.0% (×) 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。
3. 危機管 理の徹 底	(1)火災・防災訓練 の強化 (2)不審者への対応 マニュアルの改訂 (3)災害への対応マ ニュアルを設定	(1)学期ごとに 1 回年間 3 回実施 する。 (2)校務分掌の変更など整理し、 現行の対応マニュアルの見直しを実施 する。 マニュアルを教職員で共有化し対応で きるよう訓練等を実施する。 (3)事故対応マニュアルを教職員で共 有化し対応できるよう研修・訓練 等を実施	(1)2023 年度、3 回実施した。 自己評価・危機管理「事故、事件、災害時に 対処する役割分担が明確にされている。」の 肯定的評価を 80%以上に保つ。 (2)2017 年改訂を行い教職員へ告知した。 自己評価・危機管理「危機管理マニュアル、警察、 消防と連携、訓練など学校の安全対策は十分 取られている。」の肯定的評価を 80%以上に 保つ。 (3)2019 より年 1 回のアナフィラキシー対応のためエ ピペン使用講習およびてんかんの教員研修を 継続して実施する。救急救命講習を体育系ク ラブ員、教員対象に実施した。2023 年度前半校 外活動中の救急対応についてマニュアルを作成し た。評価指標は上記(2)と同様	(1)2023 年度 80.9% 2024 年度前半 74.0% (△) 継続して取り組む (2)(3)2023 年度 80.9% 2024 年度前半 80.0% (○) 継続して取り組む 今後(2)(3)を合わせて危機管 理マニュアルとし、訓練や見直し を継続的に実施することで 生徒教職員の安全確保を万 全にしてい

<p>4. カウンセ セリン グ強化</p>	<p>(1)カウンセとの連携強化 (2)不登校生徒への対応強化</p>	<p>(1)カウンセと教員との懇談を定期的に実施する。 (2)別室登校の制度を確立し、対応の教員を配置することで、不登校生徒のクラスへの復帰をサポートする。</p>	<p>(1)カウンセを含め特別支援委員会は定期開催できなかったが、支援が必要な生徒について教員間での情報の共有を図る機会を増やした。今後は教員間で共有のため頻度を上げる。 自己評価・生徒支援「カウンセリングマインド」を取り入れた支援体制がある。カウンセの活用が出来ている。」の肯定的評価を80%以上に保つ。 (2)不登校生徒に対し、別室を設置、コーディネーター教員を配置している。教室への登校を目標に保護者、カウンセとも連携し対応を強化する。 評価指標は 上記(1)と同様とする。</p>	<p>(1)(2) 2023年度 95.2% 2024年度前半 88.0% (○) 目標を達成できた。今後も特別支援委員会を継続して取り組む。 様々な原因による不登校ぎみの生徒が増加傾向にある。ため、対応強化に継続して取り組む。</p>
<p>5. 財務状 況の共 有化</p>	<p>(1)財務説明会の実施 (2)コスト意識の改善</p>	<p>(1)職員会議での財務説明会を実施する。 (2)職員会議等でコストに対する意識付けを喚起する。 ・節電 ・ICT 利用を促進し紙の使用量を減らす。</p>	<p>(1)職員会議で財務状況に触れる報告を心掛けた。 自己評価・財務関係「学校の経営指標と財務状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。 (2)節電も含め下校時間の徹底を図る。また、職員室の19時自動消灯を継続する。感染症防止のため換気を重視したためエアコンの使用が増えた。 電子データの配信により会議のペーパーレス化を目指す。 自己評価・財務関係「予算、決算の収支の状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。</p>	<p>(1)2023年度 21.4% 2024年度前半 20.0% (×) 継続して取り組む。 (2)2023年度 21.4% 2024年度前半 20.0% (×) (1)(2)とも昨年とほぼ同様の評価であった。目標からかけ離れており、継続して継続して重点項目とする。</p>